

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

4月、初年度を迎え、新年度事業を審議する総会シーズンを迎えた。私が所属する信州大学経済学部大学院の修了生・在校生で構成

する地域社会イニシアティブコースの総会に参加。1978年に信州大学の8番目の学部として誕生した経済学部。4月から、経済学を中心に学ぶ応用経済学科や、法学を中心にする総合法律学科も学べる「経法学部」として生まれ変わったばかりだ。

人口減少社会の新しい課題に果敢に取り組み、若い世代の育成に向けて、斬新な教育内容を展開したいとの意気込みが出席した教員から伝わってくる。「現場から学ぶ」、「現場で学ぶ」、「最新のデジタル設備でアクティ

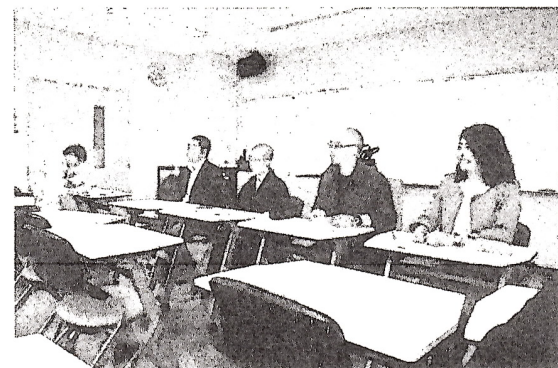
ブに学ぶ」3つの特色ある最新の教育スタイル。新たな教育環境から、意欲的な社会人が誕生して、国際経済現場での活躍を期待したい。

今年も5名の新入生を迎えるが、出身地域が岐阜県・飯田市・駒ヶ根市・伊那市・塩尻市の「南高北零」。身近な松本に学びができる環境を大いに活用してほしいと願う。恒例の歓迎会、多くのメンバーが、松本で宿が確保できなかったとの情

報。その日は、サッカーの松本山雅の試合が、松本市のアルウィンであったのが原因との声で納得した。しかし直接、宿泊関係者に尋ねると、御柱祭の里曳きや建御柱など関連祭事が続き、5月まで宿の予約は順調なうえ、松本城での桜鑑賞のお客が多く、外国からのお客様が例年以上との情報。松本城などの観光資源の活用が今後の重要な課題だと再認識する。

同窓の役員、多様な職種の人材に成長させていると実感させられる

常に課題を持って学ぼうと努力する人達との出会いが大切だと考えてみませんか



を、大目さんの実践活動で木曾地域を活性化してほしいと願った楽しい出会いの1日でもあった。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・森白馬村上)